『マツヤ・プラーナ』第185章：和訳と註解

――『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について⑷――

宮　本　久　義

１．はじめに

ヒンドゥー教の聖地ヴァーラーナスィー（別名カーシー，バナーラス，ベナレス）の縁起と巡礼作法を説く『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」は，同書の第180章から第185章の６章からなっている。本稿はそのうちの最後にあたる第185章の和訳である。第180～184章は，『東洋大学文学部紀要』に三回に分けて掲載したが，昨年それらに若干の訂正と加筆をほどこし，「Matsyapurāṇa 所収の Vārāṇasīmāhātmya：和訳と註解」として，『東洋における聖地信仰の研究―ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件』に収載した。それらの発表年等については参考文献表を参照されたい。

内容的には今までの章と同じく，アヴィムクタ（ヴァーラーナスィーの別名で，シヴァ神が愛しんで〈離れられない所〉の意）の称賛で，悪人でさえもこの聖地にひとたび足を踏み入れそこで死ねば解脱が得られることが強調されている。また，ヴェーダ聖典や『マハーバーラタ』，プラーナ聖典の編者と伝承的に言われるヴィヤーサが，この聖地に来て乞食をしたが得られず，怒ってこの都に住む人々を呪詛しようとしたが，かえってシヴァ神によって追放されるという重要なエピソードが語られる。ただし，シヴァ神と聖仙ヴィヤーサの確執の背景は不明である。

テクストには，*Matsyapurāṇa*. Ananda Ashrama Sanskrit Series 54, Poona, 1981. を用いた。また，*The Matsyapurāṇam*. H. H. Willson (forworded), 2 vols., Delhi: Nag Publishers, 1983.に付された英訳を適宜参照した。

2.『マツヤ・プラーナ』第185章和訳

sūta uvāca
スータが言った。

avimukte mahāpuṇye cā ”stikāḥ śubhadarśanāḥ,
vismayaṃ paramaṃ jagmur harṣagadgadanisvanāḥ. 1
偉大なる善果〔をもたらす〕アヴィムクタで，敬虔で吉相を持つ者たちは，最高の驚異に達し，喜びに声を詰まらせた。

ūcus te hṛṣṭamanasaḥ skandaṃ brahmavidāṃ varam,
brahmaṇyo devaputras tvaṃ brāhmaṇo brāhmaṇapriyaḥ. 2
心に喜びを抱いた彼らは，ブラフマンについて最もよく知るスカンダに言った。
汝は敬虔なる神の子であり，ブラフマンの知者であり，ブラーフマン（バラモン）に親しい者である。

brahmiṣṭho brahmavid brahmA brahmendro brahmalokakṛt,
brahmakṛd brahmacārī tvaṃ brahmādir brahmavatsalaḥ. 3
汝は最高のブラーフマンであり，ブラフマンを知るブラフマーであり，ブラーフマンの長であり，ブラフマーの天界に至った者であり，梵行者であり，ブラフマーの愛しき者であり，

brahmatulyodbhavakaro brahmatulya namo ’stu te,
ṛṣayo bhāvitātmānaḥ śrutvedaṃ pāvanaṃ mahat. 4
ブラフマーに等しい創造者である。ブラフマーの同等者よ，汝に敬礼せん。
聖仙たちは，このたいへん聖なる〔話〕[1]を聞いて，大いに浄化された。

---

(1) 直前までの章でスカンダが語った話を指す。

tattvaṃ tu paramam jñātaṃ yaj jñātvā 'mṛtam aśnute,
svasti te 'stu gamiṣyāmo bhūrlokaṃ śaṃkarālayam. 5
真理こそが最高の知であると知り，アムリタ（甘露，不死）を享受する。
汝に幸いあれ，我々は地上界のシャンカラ（シヴァ）の居所(2)に行かん。

yatrāsau sarvabhūtātmā sthāṇubhūtaḥ sthitaḥ prabhuḥ,
sarvalokahitārthāya tapasy ugre vyavasthitaḥ. 6
そこではかの全生類の魂であり，不動の存在である主がおり，
全世界の利益のために，苛酷な苦行に励んでいる。

saṃyojya yogenā "tmānaṃ raudrīṃ tanum upāSritaḥ,
guhyakair ātmabhūtas tu ātmatulyaguṇair vṛtaḥ. 7
ヨーガに専心し，自身を激烈な体に依拠させており，
グヒヤカ(3)たちとともに，自身に相応しい美徳を持って存在する。

tato brahmādibhir devaiḥ siddhaiś ca paramarṣibhiḥ,
vijñaptaḥ parayā bhaktyā tvatprasādād gaṇeśvara. 8
それゆえ，ブラフマーをはじめとする神々や，スィッダたちや最高の聖仙たちにより，
あなたの恩恵によって，最高の信愛をもって〔あなたは〕認識される，眷族の主（シヴァ）よ。

vastum icchāma niyatam avimukte suniścitāḥ,
evaṃ guṇe tathā martyā hy avimukte vasanti ye. 9
堅固な心を持つ我々はアヴィムクタに常に住みたいと願っている。
なぜなら，死すべき者たちも，このような美徳を持つアヴィムクタに住むから。

---

(2) 「地上界のシャンカラ（シヴァ）の居所」とは，ヴァーラーナスィーのこと。
(3) guhyaka の原義は「隠れた者」といった意味であるが，yakṣa（夜叉）とほぼ同義に扱われる。

(4)

dharmaśīlā jitakrodhā nirmamā niyatendriyāḥ,
dhyānayogaparāḥ siddhiṃ gacchanti paramāvyayām. 10
ダルマを遵守し，怒りを制御し，無私で，感官を制御し，
瞑想のヨーガに住する者たちは，最高の不壊の成就に赴く。

yogino yogasiddhāś ca yogamokṣapradaṃ vibhum,
upāsate bhaktiyuktā guhyaṃ devaṃ sanātanam. 11
ヨーギンとヨーガの成就者たち，信愛に結ばれた者たちは，
最高のヨーガと解脱をもたらす，神の永遠の秘密〔の聖地〕に住む。

avimuktaṃ samāsādya prāptayogān maheśvarāt,
sapta brahmarṣayo nītā bhavasāyujyam āgatāḥ. 12
アヴィムクタに来て，ヨーガを得た偉大な神によって，
導かれて，７人のバラモン出身の聖仙は，神のそば近くに赴いた。[4]

etat tu paramaṃ kṣetram avimuktaṃ vidur budhāḥ,
aprabuddhā na paśyanti bhavamāyāvimohitāḥ. 13
賢者たちはこのアヴィムクタを最高の聖地であると知る。
現象世界の幻影に惑わされて目覚めていない者たちは〔そのことを〕見ない。

tenaiva cābhyanujñātās tanniṣṭhās tatparāyaṇāḥ,
avimukte tanuṃ tyaktvā śāntā yogagatiṃ gatāḥ. 14
彼（シヴァ）によって認められ，彼に専心する彼の信者たちは，
アヴィムクタで肉体を捨てれば，寂静のヨーガの境地に赴く。

sthānaṃ guhyaṃ śmaśānānāṃ sarveṣām etad ucyate,
na hi yogād ṛte mokṣaḥ prāpyate bhuvi mānavaiḥ. 15
ここは全ての火葬場の中で〔最も〕秘密の場所であると言われる。
人間はこの世でヨーガなしには解脱を得られない。

---

(4) sapta brahmarṣaya と総称される７聖仙の個々の名前は伝承によって大分異なる。また北斗七星を指すこともある。

avimukte nivasatāṃ yogo mokṣaś ca sidhyati,
eka eva prabhāvo 'sti kṣetrasya parameśvari.
anena janmanaiveha prāpyate gatir uttamā. 16
アヴィムクタに住む人は，ヨーガも解脱も成就する。
最高の女神よ，ただ一度の聖地の恩恵がある。
今生のみで，ここでは至上の境地（解脱）が得られる。

avimukte nivasatā vyāsenāmitatejasā,
naiva labdhā kvacid bhikṣā bhramamāṇena yatnataḥ. 17
アヴィムクタに住んだ無限の威力を持つヴィヤーサ[5]が，
歩き回ったが，どこでも布施を得られなかった。

kṣudhāviṣṭas tataḥ kruddho 'cintayac chāpam uttamam,
dinaṃ dinaṃ prati vyāsaḥ ṣaṇmāsaṃ yo 'vatiṣṭhati. 18
飢餓に苦しめられ，怒り，そして，毎日最高の呪いを考えて，
ヴィヤーサは 6 か月を過ごした。

kathaṃ mamedaṃ nagaraṃ bhikṣādoṣād dhataṃ tv idam,
vipro vā kṣattriyo vā 'pi brāhmaṇī vidhavā 'pi vā. 19
どうしてこの街は私に布施をしないでこのように傷つけるのか。
ブラーフマンもクシャットリヤもブラーフマンの寡婦もまた。

saṃskṛtā 'saṃskṛtā vā 'pi paripakvāḥ kathaṃ nu me,
na prayacchanti vai lokā brāhmaṇāś caryakārakam. 20
教養のある者も無い者も，立派な者も，世間のブラーフマンも，
どうして乞食する私に〔布施を〕与えないのか。

⑸ 叙事詩『マハーバーラタ』の伝説的な作者とされるヴィヤーサのことで，クリシュナドヴァイパーヤナ，あるいはヴェーダヴィヤーサとも呼ばれる。

（６）

eṣāṃ śāpaṃ pradāsyāmi tīrthasya nagarasya tu,
tIrthaṃ cātīrthatāṃ yātu nagaraṃ śāpayāmy aham. 21
聖地の街のこれらの者に呪いをかけよう。
私は聖地が聖地の性質を失うよう，街に呪いをかけよう。

mā bhūt tripauruṣī vidyā mā bhūt tripauruṣaṃ dhanam,
mā bhūt tripauruṣaṃ sakhyaṃ vyāso vārāṇasīṃ śapan. 22
〔上位〕３階級の者が知識を失うように，３階級の者が財を失うように，
３階級の者が友情を失うように，とヴィヤーサはヴァーラーナスィーを
呪った。

avimukte nivasatāṃ janānāṃ puṇyakarmaṇām,
vighnaṃ sṛjāmi sarveṣāṃ yena siddhir na vidyate. 23
アヴィムクタに住む善行を行っている人々
全てに，それが成就しないよう破壊を生み出そう。

vyāsacittaṃ tadā jñātvā devadeva umāpatiḥ,
bhītabhītas tadā gaurīṃ tāṃ priyāṃ paryabhāṣata. 24
ヴィヤーサの心をその時知ったウマー(6)の夫で神々の神は，
たいへん恐れて，かの愛しきガウリーに向かって言った。

śṛṇu devi vaco mahyaṃ yādṛśaṃ pratyupasthitam,
kṛṣṇadvaipāyanaḥ kopāc chāpaṃ dātuṃ samudyataḥ. 25
女神よ，このように面前に座っている私の言葉を聞きなさい。
クリシュナドヴァイパーヤナは怒りから呪いをかけようとしている。

devy uvāca
女神が言った。

(6) ウマーも次行のガウリーもシヴァ神の妃パールヴァティーの別名。

kim arthaṃ Sapate kuddho vyāsaḥ kena prakopitaḥ,
kiṃ kṛtaṃ bhagavaṃs tasya yena śāpaṃ prayacchati. 26
どうしてヴィヤーサは怒って呪いをかけるのですか。だれが怒らせたのですか。
神よ，彼に何がなされたのですか，それによって呪いをかけることになったような。

devadeva uvāca
神々の中の神が言った。

anena sutapas taptaṃ bahūn varṣagaṇān priye,
mauninā dhyānayuktena dvādaśābdān varānane. 27
愛しき人よ，〔彼は〕長年の間多くの苦行を積んだのだ。
12年間，沈黙の行を，美しき顔を持つ人よ。

tataḥ kṣudhā susaṃjātā bhikṣām aṭitum āgataḥ,
naivāsya kenacid bhikṣā grāsārdham api bhāmini. 28
それから，飢餓を覚えて彼が布施を受けに来たが，
誰も彼に半かけらの食べ物も与えなかった，情熱的な女性よ。

evaṃ bhagavataḥ kāla āsīt ṣāṇmāsiko muneḥ,
tataḥ krodhaparītātmā śāpaṃ dāsyati so 'dhunā. 29
このようにして，尊い聖者に6か月の時が過ぎた。
そこで，怒りに満ちた彼は，今にも呪いをかけるであろう。

yāvan naiṣa śapet tāvad upāyas tatra cintyatām,
kṛṣṇadvaipāyanaṃ vyāsaṃ viddhi nārāyaṇaṃ priye. 30
彼が呪いをかける前に，〔それを防ぐ〕方法を考えなければならない。
クリシュナドヴァイパーヤナ・ヴィヤーサをナーラーヤナ(7)であると知りなさい，愛しき者よ。

---

(7) ヴィシュヌ神の別名。

ko ’sya śāpān na bibheti hy api sākśāt pitāmahaḥ,
adaivaṃ daivataṃ kuryād daivaṃ cāpy apadaivatam. 31
誰が彼の呪いを防げるのか，〔彼は〕まさしく祖父[8]なのであるから。
〔彼は〕運命でないことを運命にし，運命を運命でないものにしてしまう。

āvāṃ tu mānuṣau bhūtvā gṛhasthāv iha vāsinau,
tasya tṛptikarIṃ bhikṣāṃ prayacchāvo varānane. 32
我々は人間の姿になって，ここに家住者として住み，
彼が満足する布施を与えよう，美しき顔の人よ。

evam uktā tato devI devena śaṃbhunā tadā,
vyāsasya darśanaṃ dattvā kṛtvā veṣaṃ tu mānuṣam. 33
吉祥なる神にこのように言われた女神は，その時，
人間の姿になって，ヴィヤーサに会って〔言った〕。

ehy ehi bhagavan sādho bhikṣāṃ grāhaya sattama,
asmadgṛhe kadācit tvaṃ nā "gato 'si mahāmune. 34
修行者の尊者よ，こちらへこちらへ。最上の者よ，布施をお取りなさい。
汝は，偉大な聖者よ，私たちの家にいままで訪問しませんでしたね[9]。

etac chrutvā prItamanā bhikṣāṃ grahItum āgataḥ,
bhikṣāṃ dattvā tu vyāsāya ṣaḍrasām amṛtopamām. 35
それを聞いて，嬉しくなった者は，布施を受け取りに来た。
甘露に等しい六味の布施がヴィヤーサに与えられ，

---

(8) ここで「祖父」と言われたのは，『マハーバーラタ』の登場人物としてのヴィヤーサが，カウラヴァ族とパーンダヴァ族双方にとっての長老で，具体的にはユディシュティラをはじめとする５王子とドゥルヨーダナをはじめとする百王子の祖父にあたるからであると考えられる。

(9) シヴァの妃は Annapūrṇā（アンナプールナー，食を満たす者）という別名があり，ヴァーラーナスィーでは，シヴァ神を祀る最も重要なヴェシュヴェーシュヴァラ（ヴィシュヴァナート）寺院に対面してアンアプールナー寺院があり，多くの参拝者が訪れる。

anāsvāditapūrvā sā bhakṣitā muninā tadā,
bhikṣāṃ vyāsas tato bhuktvā cintayan hṛṣṭamānasaḥ. 36
聖者はその時，今まで味わったことのない美味なるものを食べた。
ヴィヤーサは布施をいただいてから，心を浮き立たせて考えた。

vavande varadaṃ devaṃ devīṃ ca girijāṃ tadā,
vyāsaḥ kamalapattrākṣa idaṃ vacanam abravīt. 37
それから，恩恵を施す神と山の女神を敬礼した。
蓮の眼をしたヴィヤーサは，次のような言葉を言った。

devo devī nadī gaṅgā miṣṭam annaṃ śubhā gatiḥ,
vārāṇasyāṃ viśālākṣi vāsaḥ kasya na rocate. 38
神や女神やガンガー川や美味の食べ物や吉祥なる境地がある
ヴァーラーナスィーに住むことを，大きな眼をした女性よ，
誰が喜ばないことがありましょう。

evam uktvā tato vyāso nagarīm avalokayan,
cintayānas tato bhikṣāṃ hṛdayānandakāriṇīm. 39
そのように言って，それからヴィヤーサは，街を眺め，
心を喜ばせる布施のことを考えた。

apaśyat purato devaṃ devīṃ ca girijāṃ tadā,
gṛhāṅgaṇasthitaṃ vyāsaṃ devadevo 'bravīd idam. 40
その時，面前にいる神と山の女神を見た。
家の庭にいるヴィヤーサに，神々の中の神は次のように言った。

iha kṣetre na vastavyaṃ krodhanas tvaṃ mahāmune,
evaṃ vismayam āpanno devaṃ vyāso 'bravīd vacaḥ. 41
偉大な聖者よ，怒りやすい汝がこの土地に住むべきではない。
驚いたヴィヤーサは神に次のような言葉を言った。

vyāsa uvāca
ヴィヤーサが言った。

caturdaśyām athāṣṭamyāṃ pradeśaṃ dātum arhasi,
evam astv ity anujñāya tatraivāntaradhīyata. 42
第14日と第８日[10]に〔この〕土地を訪れることをお許し下さい。
〔シヴァ神は〕，よろしい，と許可を与えて，その場で消えた。

na tad gṛhaṃ na sā devī na devo jñāyate kvacit,
evaṃ trailokyavikhyātaḥ purā vyāso mahātapāḥ. 43
その家も女神も神も，どこにも認められなかった。
このように，かつて三界に知られた偉大な苦行者ヴィヤーサは，

jñātvā kṣetraguṇān sarvān sthitas tasyaiva pārśvataḥ,
evaṃ vyāsaṃ sthitaṃ jñātvā kṣetraṃ śaṃsanti paṇḍitāḥ. 44[11]
聖地の全ての美徳を知り，その〔土地の〕そばに住むことになった。
このように，ヴィヤーサの住むことを知って，
賢者たちは聖地を称賛する〔ようになった〕。

avimuktaguṇān sarvān kaḥ samartho vadiṣyati,
devabrāhmaṇavidviṣṭā devabhaktiviḍambakāḥ. 45
アヴィムクタの全ての美徳を，誰が語ることができよう。
神やバラモンを敵視する者たち，神への信愛を嘲笑する者たち，

⑽ ヒンドゥー教の太陰太陽暦は，１か月を満月から新月にいたる半月（黒分）と新月から満月にいたる半月（白分）とに分ける。そのそれぞれの半月の第８日目と第14日目ということ。多くのプラーナ聖典では，それらの日はシヴァ神への礼拝日とされており，追放されたヴィヤーサがそれらの日にヴァーラーナスィーを訪れることを願ったのは，シヴァ神への礼拝に行くためであったと考えられる。また，現在でも，アーシャーダ月の最終日はグル・プールニマー（師の満月）といって，師に感謝を捧げる祭礼日になっているが，この日はまたヴィヤーサ・プージャー（ヴィヤーサへの礼拝）の日ともなっていて，ヴィヤーサが追放されたとされるガンジス川の対岸に参拝に行く人もいる。［宮本 2003: 198］，［Eck 1983: 161］参照。
⑾ 底本に用いたテクストでは，この詩節以下３詩節の番号が誤記されているので訂正した。

brahmaghnāś ca kṛtaghnāś ca tathā naiṣkṛtikāś ca ye,
lokadviṣo gurudviṣas tīrthāyatanadūṣakāḥ. 46
バラモンを殺す者たち，恩に仇なす者たち，
世間を憎む者たち，師を憎む者たち，聖地を汚す者たち，

sadā pāparatāś caiva ye cānye kutsitā bhuvi,
teṣāṃ nāstīti vāso vai sthito 'sau daṇḍanāyakaḥ. 47
罪の常習者たちや，その他世間で批難される者たち，
彼らには留まる所がない。〔ここには〕かのダンダナーヤカ(12)が居る〔から〕。

rakṣaṇārthaṃ niyuktaṃ vai daṇḍanāyakam uttamam,
pūjayitvā yathāśaktyā gandhapuṣpādidhūpakaiḥ. 48
守護のために〔シヴァによって〕任じられた最高のダンダナーヤカを，
香や花などの香煙によってできうる限り崇拝をし，

namaskāraṃ tataḥ kṛtvā nāyakasya tu mantravit,
sarvavarṇāvṛte kṣetre nānāvidhasarīsṛpe. 49
それから，ナーヤカの真言で敬礼をして，
全てのヴァルナ（階層）の人々や，様々の種類の這うもの（蛇等）たちが集まる聖地で，

īśvarānugṛhītā hi gatiṃ gāṇeśvarīṃ gatāḥ,
nānārūpadharā divyā nānāveṣadharās tathā. 50
神の恩恵を得た者たちは，眷族の主（シヴァ）の境地に赴く。
様々の姿をし，様々の衣装をまとう神々もまた。

(12) この聖地を警護する Daṇḍapāṇi 神（ダンダパーニ，警棒を持つ者）のことで，ガネーシャに分類されてはいるが，バイラヴァ（シヴァ神の忿怒の相）の要素も併せ持つ神で，混乱（サンブラマ）と疑惑（ウドブラマ）という 2 人の部下とともに，この都にふさわしくない者を放逐する役割をシヴァ神から与えられた。［宮本 2003: 158］参照。

surā vai ye tu sarve ca tanniṣṭhās tatparāyaṇāḥ,
yad icchanti paraṃ sthānam akṣayaṃ tad avāpnuyuḥ. 51
全ての神々や，その信心者，専心者は，
願った最高の不壊の場所を得る。

paraṃ puraṃ daivapurād viśiṣ yate tad uttaraṃ brahmapurāt puraḥ sthitam,
tapobalād īśvarayoganirmitaṃ na tatsamaṃ brahmadivaukasālayam.
manoramaṃ kāmagama（ṃ） hy anāmayam atītya tejāṃsi tapāṃsi yogavat, 52
それは神々の都城より優れた都城で，ブラフマーの都城より上に位置する。
苦行の力により神のヨーガで作られたもので，ブラフマーと神々の居処の比ではない。

adhiṣṭhitas tu tatsthāne devadevo virājate,
tapāṃsi yāni tapyante vratāni niyamāś ca ye. 53
神々の中の神はその場所に居て輝いている。
苦行を修し，そして誓戒を守り，

sarvatīrthābhiṣekaṃ tu sarvadānaphalāni ca,
sarvayajñeṣu yat puṇyam avimukte tad āpnuyāt. 54
全ての聖地の潅頂と全ての布施の果報と，
全ての供犠における善を，アビムクタでは得られる。

atītaṃ vartamānaṃ ca ajñānāj jñānato 'pi vā,
sarvaṃ tasya ca yat pāpaṃ kṣetraṃ dṛṣṭvā vinaśyati. 55
過去のものも現在のものも，知らずにあるいは故意に〔なした〕，
その人の全ての罪は，聖地を見ると，消滅する。

śāntair dāntais tapas taptaṃ yat kiṃcid dharmasaṃjñitam,
sarvaṃ ca tad avāpnoti avimukte jitendriyaḥ. 56
心の平静な者や心を制御した者によってなされた，どのような善行といわれる苦行も，
感官を制御した者たちは，アヴィムクタでその全てを得る。

avimuktaṃ samāsādya liṅgam arcayate naraḥ,
kalpakoṭiśataiś cāpi nāsti tasya punarbhavaḥ. 57
アヴィムクタに来て，リンガ（シヴァ神の象徴）を崇拝する者は，
何十億劫（カルパ）経ても，再び生まれることはない。

amarā hy akṣayāś caiva krīḍanti bhavasaṃnidhau,
kṣetratīrthopaniṣadam avimuktaṃ na saṃśayaḥ. 58
なぜなら，不死の者や不壊の者が神の近くで遊んでおり，
アヴィムクタが聖地の秘儀であることは疑いない。

avimukte mahādevam arcayanti stuvanti vai,
sarvapāpavinirmuktās te tiṣṭhanty ajarāmarāḥ. 59
アヴィムクタで偉大な神を拝み，讃える者たちは，
全ての罪から解放され，不老不死となる。

sarvakāmāś ca ye yajñāḥ punar āvṛttikāḥ smṛtāḥ,
avimukte mṛtā ye ca sarve te hy anivartakāḥ. 60
あらゆる欲を持って儀礼を行う者たちは，再び戻ってくると言われる。
〔しかし〕アヴィムクタで死んだ者は全て，戻ってくることはない。

grahanakṣatratārāṇāṃ kālena patanād bhayam,
avimukte mṛtānāṃ tu patanaṃ naiva vidyate. 61
惑星や星座[13]や星々はいつか落ちる恐れがあるが，
アヴィムクタで死んだ者には，〔地獄に〕落ちることはない。

⒀ nakṣatra は星や天体一般を表したり，月の通過する軌道にある星座（二十七宿あるいは二十八宿）を意味する。

kalpakoṭisahasrais tu kalpakoṭiśatair api,
na teṣāṃ punar āvṛttir mṛtā ya kṣatra uttame. 62
何十億劫や何百億劫経ても，
この最高の聖地で死んだ者たちは，再び戻ることがない。

saṃsārasāgare ghore bhramantaḥ kālaparyayāt,
avimuktaṃ samāsādya gacchanti paramāṃ gatim. 63
恐ろしき輪廻の大海に，時の終末まで彷徨う者たちは，
アヴィムクタに来て，最高の境地に赴く。

jñātvā kaliyugaṃ ghoraṃ hāhābhūtam acetanam,
avimuktaṃ na muñcanti kṛtārthās te narā bhuvi. 64
阿鼻叫喚の心なき恐ろしいカリユガ(14)を知って，
アヴィムクタを離れない者たちは，この世で目的を達する。

avimuktaṃ praviṣṭas tu yadi gacchet tataḥ punaḥ,
tadā hasanti bhūtāni anyonyakaratāḍanaiḥ. 65
アヴィムクタに入った者が，もしそこから再び出るならば，
その時，相互に殴り合い，人々に嘲笑される。

kāmakrodhena lobhena grastā ye bhuvi mānavāḥ,
niṣkramante narā devi daṇḍanāyakamohitāḥ. 66
この世で性愛，憤怒，貪欲に捉えられた者たちは，
女神よ，ダンダナーヤカに惑わされて，出ていく。

---

(14) ヒンドゥー教の世界観では，世界の創造から破壊にいたるまでの周期を 4 つのユガと呼ばれる期間から構成されるとするが，カリユガはその第 4 期で，生類の肉体的衰弱と道徳的退廃が極まった時期と考えられている。ヒンドゥー教の宇宙観については，［橋本・宮本・山下 2005：69-73］参照。

japadhyānavihīnānāṃ jñānavarjitacetasām,
tato duḥkhahatānāṃ ca gatir vārāṇasī nṛṇām. 67
朗誦，瞑想を行わない者たち，知識なき者たち，
苦に打ちひしがれた者たちが，赴くべきはヴァーラーナスィーである。

tīrthānāṃ pañcakaṃ sāraṃ viśveśānandakānane,
daśāśvamedhaṃ lolārkaḥ keśavo bindumādhavaḥ. 68
ヴィシュヴェーシャの喜びの苑にある聖地の５つの精髄は，
ダシャーシュヴァメーダ，ローラールカ，ケーシャヴァ，ビンドゥマーダヴァ[15]，

pañcamī tu mahāśreṣṭhā procyate maṇikarṇikā,
ebhis tu tīrthavaryaiś ca varṇyate hy avimuktam. 69
そして，５つ目が至上のマニカルニカー[16]と言われる。
この５つの優れた聖地により，アヴィムクタはまさに讃えられる。

eka eva prabhāvo 'sti kṣetrasya parameśvari,
ekena janmanā devi mokṣaṃ paśyanty anuttamam. 70
ただ一度の聖地の恩恵で，最高の女神よ，
一度の生で，女神よ，至上の解脱が得られる。

etad vai kathitaṃ sarvaṃ devyai devena bhāṣitam,
avimuktasya kṣetrasya tat sarvaṃ kathitaṃ dvijāḥ. 71
神によって女神のために説かれた全てが述べられた。
聖地アヴィムクタのこの全てが再生族に述べられた。

---

(15) Daśāśvamedha, Lolārka, Keśava, Bindumādhava はヴァーラーナスィーにおける重要な聖地で，ダシャーシュヴァメーダはガンジス川沿いの約６キロにわたる沐浴場で最も重要とされる場所。ローラールカは旧市街南部にある巨大な井戸。ケーシャヴァとビンドゥマーダヴァは，ヴィシュヌ神を祀る寺院である。

(16) Maṇikarṇikā（マニカルニカー）は旧市街にある火葬場で，ヴァーラーナスィーの別名である Mahāśmaśāna（マハーシュマシャーナ，大いなる火葬場）の由来となった場所。

《テクスト》

Matsyapurāṇa. Ananda Ashrama Sanskrit Series 54, Poona, 1981. (底本)
The Matsyapurāṇam. H. H. Willson (forworded), 2 vols., Delhi: Nag Publishers, 1983.

《参考文献》

Eck, Diana L., 1983, *Banaras: City of Light.* London: Routledge & Kegan Paul.
Singh, Rana P. B., 2002, *Towards the Pilgrimage Archetype: The Pañcakrośī Yātrā of Banāras.* Varanasi: Indica Books.
上村勝彦訳，1992，『バガヴァッド・ギーター』岩波文庫.
小西正捷・宮本久義編，1995『インド・道の文化誌』春秋社.
定方晟，1985，『インド宇宙誌』春秋社.
菅沼晃編『インド神話伝説辞典』東京堂出版，1985.
橋本泰元・宮本久義・山下博司，2005，『ヒンドゥー教の事典』東京堂出版.
宮本久義，2003，『ヒンドゥー聖地　思索の旅』山川出版社.
宮本久義，2006，「『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について」，『東洋大学文学部紀要第59集インド哲学科篇 XXXI』，1～20頁.
宮本久義，2007，「『マツヤ・プラーナ』第183章：和訳と註解―『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について」(2)―」『東洋大学文学部紀要第60集インド哲学科篇 XXXII』，47～70頁.
宮本久義，2009，「『マツヤ・プラーナ』第184章：和訳と註解―『マツヤ・プラーナ』所収の「ヴァーラーナスィー・マーハートミヤ」について」(3)―」『東洋大学文学部紀要第62集インド哲学科篇 XXXIV』，1～15頁.
宮本久義，2010，「Matsyapurāṇa 所収の VārāṇasImāhātmya：和訳と註解」『東洋における聖地信仰の研究―ヒンドゥー教と仏教における聖地巡礼成立の要件』東洋大学東洋学研究所，17～65頁.

《キーワード》マツヤ・プラーナ，ヴァーラーナスィー，マーハートミヤ，ヒンドゥー教，聖地巡礼
《英文タイトル》
MIYAMOTO, Hisayoshi:
A Japanese Translation and Notes of the Vārāṇ asī-māhātmya in *Matsyapurāṇa* (4)